



2018

総力特集

Go!

みんなで

ヨック×アウトドア Outdoors

あなたにとって、4WD・SUVとは一体どんな存在だろうか？

通勤や通学の手段か、荷物を運ぶための道具か、もしくは趣味やレジャーのための移動の足か…。

中には1人になれる場所というオーナーもいるだろう。もちろんそのどれもが正解だが、いずれもベストアンサーではない。

移動のための手段であり、クルマを使った「ソトアソビ」を味わうためのギアであり、そもそもクルマ自体を楽しんだり…。

クロカン四駆的キャラクターと、ミニバン並のユーティリティという2つの性能で、全部をこなす「相棒」とするのが、最も正解に近い。

だからこそ、どんな状況でも活躍してくれる4WD・SUVをアウトドアに連れ出し、頼れる非日常の相棒として使い切らなければ！

今回は、すぐにもフィールドに飛び出したいような「ヨック×アウトドア」なさまざまなコンテンツを、特集としてお届けしよう!!!

CONTENTS

theme

01

P60~

ヨックと楽しむ
フィールドのすゝめ

Go! Outdoors

theme

02

P64~

WOODLAND
TRAIL CAMP

仲間と共にアウトドアを満喫

theme

03

P68~

佐渡島
林道ツーリング

四駆親父が行く珍道中

theme

04

P72~

ヨック×アウトドア
×イベント

EVENT Report

theme

05

P76~

SUV専門店
相棒に出会おう!

アウトドアにヨックを選ぶ理由

and
MORE...



4WDでフィールドを味わい尽くせ!



本当の意味でのアウトドアを満喫する ヨンクと楽しむフィールドのすすめ

せっかくの4WD・SUVのポテンシャルは、日常だけで使うにはもったいない！
そう、相棒とフィールドに繰り出してこそ、本当のありがたみが改めて分かる。
パーソナルなスペースを確保できるなど、単なる移動手段ではない4WD・SUVでアウトドアへGo! Go! Go!!!

MODEL ● 立花未来 PHOTO ● 浅井岳男 TEXT ● 編集部

**ゆとりや遊び心があれば
アウトドアは面白くなる**

本誌を読んでいるのは4WD・SUVのオーナーさん、あるいはヨンクに興味を持っている方々だろう。なら皆さんは、なぜヨンクを愛車に選ぶのか？ まず、オフロード走破性がピックアップされるかもしれない。ただし、それはあくまで4WD・SUVのひとつの側面だろう。本格派4WDとして頑なにスタンスを変えないジープ・ラングラーにしても、トヨタ・ランドクルーザーにしても、現代では家族を乗せて高速道路の長距離移動を快適にこなす万能モデルとなっている。

ではなぜ4WD・SUVの車種は拡大し続け、そしてオーナーに選ばれているのか？ それは、乗ることで手に入る安心感（つまりは心の余裕）、そしていつでも非日常へ旅立つことができるオーパースベックなど、人生を豊かにするための、ゆとり、や、遊び心にあると思う。行き詰った時、ふと立ち止まった瞬間、誰でも多かれ少なかれ「遠くへ行きたい」と願う気持ちはある。そう、日常から外れた冒険や刺激の中にある人生を楽しむためのスパイスを求めているのじゃないだろうか。

また、4WD・SUVの真の魅力は見た目だけでなく、使っていて走ってみたいと分らない。そこには、オフロード走破性が随一であることを要因とする、肩の力を抜いても良いというようないい意味での緩さがある。そして、そのリズムに慣れると一層心地良く感じられるものだ。

そうしたヨンクのポテンシャルを十分に引き出し、味わうための最適な手段は、アウトドア・トラ

Supported by **WORK**

●ワーク ●http://www.work-wheels.co.jp

JAOS ●ジャオス ●https://www.jaos.co.jp

TigerAuto ●タイガーオート ●http://www.tigerauto.com

LUXZ ●ラグジ ●http://luxz.jp

撮影に集合したデモカーの共通点は、本格4WDであること。もうひとつがいずれも数多くの質実剛健なホイールを生み出すメーカー、WORK製Tグラブティックを履いていること。車種もテストも、カスタムプロデュースも異なる3台だが、足もとを自然に彩るホイールの懐の深さとサイズ設定は要注目。



CRAG T-GRABIC (価格は税別)

SIZE	INSET	P.C.D	HOLE	MGMRCカラー	AHGRCカラー
15x5.0J	45	100	4H	¥27,000	¥27,000
16x5.5J	20	139.7	5H	¥35,000	¥35,000
16x7.0J	38	114.3	5H	¥38,000	¥38,000
17x6.5J	38	139.7	6H	¥42,000	¥42,000
17x7.0J	38	127	5H	¥43,000	¥43,000
17x8.0J	20	139.7	6H	¥45,000	¥45,000

- カラー：マッドカーボンカットリム (MGMRC) / アッシュドチタンカットリム (AHGRC)
 - 仕様：鍛造1ピース (JWL&JWL-T, VIA規格適合)
 - 付属品：センターキャップ、エアバルブ
- ※ジムニー用16x5.5Jサイズにはセンターキャップの設定なし。



歯車型のディスクデザインは基となる本格オフロード競技ホイールを忠実に再現して構成。市販品もオフロードで使える強度・剛性を確保した WORK 製ホイールだ。縁取られたビードロックリング形状のリムフランジなど、ギミックも数多い。

ンスポーター」として使うことも出来ない。例えばキャンプを楽しむためにいつもより河原の奥まで入っていく、居住スペースと共に余裕のあるラゲッジルームには、大きなアウトドアギアも積載可能。排気量の大きいモデルなら、トレーラーの牽引もできる。…そんなわけで、今回はハードなフィールドでキャンプせずに、あえて、グランピングにチャレンジしてみることにした。グラマラス・キャンピングという響きに異を唱える方もいるかもしれないが、ヨンクもアウトドアも基本的にはフリーダム(自由)がコンセプトに掲げられている。だったら、気軽なキャンプを楽しんだっていいじゃないか？ そして、ちょっとだけ林道を走ってみればきっと、心の充電もできるだろう。

そんなリフレッシュ。プチアドベンチャーに連れ出したのは150系ブラド、そして2台のジープ(ラングラー・ルビコンJL/ラングラーアンリミットJK)だ。これらはすべて、ライトなりフトアッブを敢行し、タイヤ&ホイールはどんなシーンでも安心できるものにチェンジしてある。そう、見た目はより強く、性能はより長けたものへアップグレードしたことで、日常で気兼ねなく使えて、一歩険しい山道や荒れた河原も走れる、オールラウンダーなのだ。

キャンプギアを積み込むだけならミニバンの方が優れているし、整備されたキャンプ場まで快適に移動するならセダンやスポーツティカーの方が良いかもしれない。だからと言って、4WD・SUV以外のモデルを否定はしない。

全部を受け入れてくれる懐の深さが、大自然には溢れているのだ。



休日は好きなことをとことん！好きな4WD・SUVでちょっと冒険したら、キャンプ地に行くと、その日だけの秘密基地を作って遊ぶのは実に最高。撮影地となったOrkひるがの内のOrk parkは「遊ぶ、食べる、休む」をテーマにした自然体験リゾート。森の中でBBQをしたり、釣り堀で楽しんだり、オープンカフェで一息ついたり、気軽にアウトドアを味わえる。今回の食事やテントサイトをプロデュースしたのは、Orkの「食べる」を担う「Ork Kitchen」総支配人の川端さん。地元を知り尽くし、アウトドアに精通した頼もしいスタッフによって、野外活動はさらにはかどるというもの。



4WDでフィールドを
味わい尽くせ!!!

**ヨンク
アソぼう!**

2018
Go! Outdoors

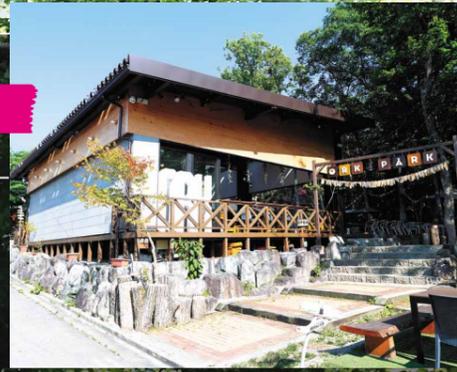


Location
Ork Hirugano
オークひるがの

今回の撮影で訪れたのは、岐阜県郡上市高鷲町にあるキャンプ場「オークひるがの」。田舎のシャワーを浴びに行こう、をテーマに、四季折々に魅力を感じられるひるがの高原でどっておきの休日過ごして欲しいと、選べる17棟の貸し別荘、手ぶらでも楽しめる本格BBQ、大自然の中をセグウェイやハイカーで遊べるアドベンチャーなど、施設内に充実のメニューが満載だ。仲間や家族、恋人と共に行ってみよう。



所在地 ● 岐阜県郡上市高鷲町見上野2363-988
Tel.0575-73-2425
URL ● <https://www.ork-hirugano.co.jp>



東海北陸自動車道を利用すれば名古屋からクルマで90分、ひるがの高原サービスエリアスマートインターからわずか3分という立地。

ただの移動じゃない、かけがえない時間のおかげで、遠くへ行きたい、という願望は、簡単に叶えられたりする。

ここまで、取材で出向いたキャンプについて原稿を書いていたら、ふっと家族の顔がよぎった。「次はプライベートで行くか」と自然と声が出る。今のクルマには装着されていないが、キャリアやラックを搭載すれば、たくさんのアウトドアギアを運ぶこともできる。大勢の仲間たちと一緒にキャンプを楽しむのも良いかも知れない。さあ心を解放する時でしょうか！



TIGERAUTO

ど こにも先駆けて、タイガーオートがいち早く日本へインポートした US 仕様の Jeep・新型ラングラー (JL 型)。ニッポンにある JL ラングラーは数台 (JAOS も 1 台デモカーを所有) という貴重なモデルだが、そこはカリスマ Jeep ショップ。

電光石火でカスタマイズに着手した。まずは、4WD カスタムの基本であるタイヤ&ホイールと、サスペンションモディファイからで、US 発のモバー・パフォーマンス製リフトアップキットによる2インチのリフトアップを敢行。

足もとに選んだタイヤは、NEW リリースされたばかりのマップドテレンタイヤ、YOKOHAMA ジオランダー M/T G003 をセレクト。サイズは日本ではまだ現行型である JK ラングラーで定番のサイズ 35 x 12.50R17 を履いている。

WRANGLER [JL] RUBICON



「ヨック×アウトドア」の達人になるなら、そうした場所へ林道ツーリング&キャンプに出掛けるのはベスト。スノーアタックに次いで、林道ツーリングはもっともイメージ的なオフロードランの機会だからだ。それでも日常のドライブでは感じられない愛車のポテンシャルを十分に試すことができる。

そう、4WD・SUV をチョイスしたら、これまでアウトドアと無縁の生活をしてきたオーナーが突然キャンプやフィールドスポーツに目覚めたり、逆にウィンタースポーツやアウトドアが好きだから一層その魅力にハマった、なんてのはよく聞く話だ。やはり、4WD・SUV は単なる移動の手段ではない！ 日常から非日常へアクセスするための頼れる相棒であり、自己主張のファッションであり、さらにライフスタイルを変えてしまおうくらい大きな存在なのだ。



ヨックでアソぼう！

カッコイイから使うんじゃなく
使えるからカッコイイ！

LANDCRUISER PRADO [150]



ほ かのデモカー同様にホイールに CRAG T-GRABIC を履く JAOS プラド。ガソリンエンジン搭載の TRJ150W をベースにリフトアップスタイルに仕上げた。フロントスキッドバー& LED 補助ランプ、チューブタイプのサ

イドステップ、リヤスキッドプレートといった往年の 4WD カスタムを彷彿とさせる。ただし、現代的なリファインが施されたハードなオリジナルアイテムを装備。もちろん、大ヒットアイテムであるマッドガードの装着も 4WDらしさの増幅に貢献している。

見た目だけでなく、走りの資質も高い。約2インチアップを実現するサスペンション [BATTLEZ リフトアップセット VFCAL] は、車高が上がってもきっちりコーナーを攻められたり、オフロードでの乗り心地の良さに定評がある。



LUXZ WRANGLER UNLIMITED [JK]

岐 卓に店舗を構えるラグジは、チャレンジャーやマスタングをはじめとするアメ車を取扱うショップ。アメ車専門店ならではのエッセンスをとり入れてメイクしたラングラー (JK 型) は、リフトアップ量は2インチアップだが、そこにフラットフェンダーを組み

合わせることで数値以上の車高に見える配慮がなされる。さらに細部のカラーリングをマットブラックで揃えることで、統一感を演出している。そう、ノーマル同様の快適性をベースにしながら、シーンを問わない使い勝手を高めるカスタムが随所に施される。



DODGE CHALLENGER
ラグジといえばやはりチャレンジャー。刺激的な加速やサウンド、そして圧巻のフォルムを身に纏う。